仙台教区報

カトリック仙台司教区事務所
〒980
仙台市青葉区本町1丁目2番12号
☎ 022(222)7371
FAX 022(222)7378
編集・発行　板垣　勤

宣教司牧に新たな息吹き

初めて体験することが一杯でびっくり？

仙台教区では89年4月より現代の社会状況を考慮し、司祭配置の適性化、地域宣教の活性化を目指すいくつかの新しい試みを始めています。なかには以前に行なわれていたことをほぼ復活させたこともありますが、従来とは異なる宣教司牧体制のもと、現在の必要に応えられるよう取り組んでいます。

司祭人事交流

まず始められたことに、司祭の地域間交流があります。今まで仙台教区は教区司祭団、宣教会、修道会ごとに地域を割り振る形で4県を司牧して来ました。この体制を改め、各会の枠を越えた司祭の人事交流による地域宣教の活性化を計りました。

これは信徒の時代と言われて久しい現代の信徒の要望に応えることにもなります。教会の中で信徒が果たすべき使命の自覚を高めることがなかなかスムーズにいっていない現状を考えると、司祭の新しい配置は各地の信徒に刺激を与えることにもなるとの期待が込められています。

共同司牧体制

次に同年11月より同じ趣旨のもとに、地域共同司牧（ブロック制）が始められました。この体制は司祭不足や司祭の高齢化を反映している面もありますが、何よりも優先して考えられていることは、これによって各地で信徒が積極的に活動できるということです。最初に共同司牧が始められた地域は宮城県南で、一人の司祭が責任者（モデラトール）として司教から任命され「宮城県南地区」の呼び名のもと4教会（亘理・角田・白石・大河原、担当司祭4名）が協力体制をとって活動を始めました。

共同司牧されることになった地域では担当司祭も信徒も、新しい司牧の形がなかなか理解しにくいことや予想外のことにたびたび直面して戸惑い、不安、心配などで混乱することもありました。しかし、現在では共同司牧による司祭、信徒の交流により信徒が持つ使命や責任に目が向くようになりました。

宮城県南の動きを見ながら教区では、91年4月から新たな共同司牧地区を設けました。新設の地区は仙台中央地区（元寺小路・畳屋丁・一本杉、担当司祭3名、協力司祭2名）会津若松地区（会津若松・田島・喜多方、担当司祭3名）と呼びます。これらの地区においても担当司祭たちが地域の実情を考慮し、信徒と協力して地域宣教に向けて歩み始めています。

信徒の働きがいのち

各地で共同司牧活動を行なってきたことによっていくつかのことが目に見えてきています。例えば、司祭の働きは信徒の協力があればこそ成果を得られる、と確認されたことがあります。

宣教司牧の働きと実りは信徒の自発的、積極的、組織的な関わりがなければうまくいかないということは経験的に知られていました。司祭が不在の教会や信徒が積極的に活動している教会ではすでに行なわれていることですが、教会の管理運営（建物、会計、宣教活動、その他）、求道者や子供たちの信仰教育の指導は信徒の働きがものをいう分野といえます。

日本も世界も動きが激しい現代にふさわしい教会の活動は、信徒が自覚をもって信仰に生きることによって、宣教の実りを各地にもたらすことにあります。このために福音による喜びを持って司祭、信徒が一体となってそれぞれが住む地域で福音の証し人にならなければなりません。

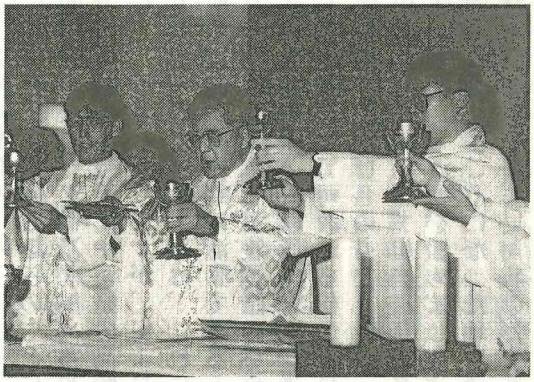
新司祭誕生

久々に仙台教区に二十代の司祭が誕生しました。

たくさんの人に大きな喜びをもたらす司祭叙階式は4月29日(みどりの日)1時30分より元寺小路教会で行なわれました。この日、佐藤司教により使徒ヨハネ氏家和仁助祭、アシジのフランシスコ小野寺洋一助祭は司祭に、また、グアダルペ外国宣教会のイグナシオ・M・バエス、エミリオ・フォルトゥルの二人は助祭に叙階されました。

叙階式は佐藤司教、野崎神学院長ほか80名におよぶ司祭団の共同司式によって行なわれ、式中の説教は土井文雄神父が行ないました。

この日は仙台教区、そして二人の出身教会の元寺小路教会にとって、待ちに待った大きな喜びの日となりました。全国から多数の人がお祝いに駆けつけ、聖堂は六百人を越す人々の熱気に満たされました。



式後、祝賀会が白百合幼稚園を会場に行なわれ、新司祭は多数の人からお祝いと喜びのことばを贈られました。それに対して二人から以下のような感謝のことばがありました。

氏家和仁神父

私の信仰、私の召命は多くの人との出会い、関わりによって生まれてきたように思います。今キリストと共に歩める道の素晴らしさに、感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも、よろしくお願いいたします。本当に皆さんありがとうございました。

小野寺洋一神父

「預言者は自分の故郷では受け入れられない」という聖書のことばが、それまで幾度となく私の気分をユウウツにさせていたのですが…。それはまったくの杞憂であったので、ホッ！　これまで暖かく見守り、育ててくださいました元寺小路教会の皆様をはじめ多くの方に、心より感謝申し上げます。

※新司祭の赴任地は次のとおりです。

氏家神父　福島・会津若松教会

小野寺神父　岩手・四ツ家教会

高田徳明神父　帰天

1991年2月19日テオフィロ高田徳明神父、くも膜下出血による脳梗塞のため鎌倉市・湘南鎌倉病院で帰天。51才。

葬儀は2月22日に佐藤司教の司式により元寺小路教会で。各地より参列者多数。

青森県出身。1973年7月司祭叙階後元寺小路、亘理、角田、東仙台の教会で司牧。この間、幼稚園、仙台白百合女子短大で教育活動にたずさわる。「こじか」その他の紙誌に多数の記事を寄稿し、信仰教育に力を注ぐ。

著書　「きょう呼びかける神　1・2」他に共著書あり。

金祝・銀祝

おめでとうございます

今年、教区内で叙階のお祝いを迎えた司祭は5名います。

教区では金祝を迎えた司祭の感謝ミサと祝賀会を11月4日（月）に仙台のカテドラルで行なうことを予定しています。

ミサは神の導きのもとで司祭生活を続けて来られたこと、多くの人に奉仕できたことを喜んで、仲間の司祭たち、信徒とともに捧げられます。

教区行事に先だって、各司祭の小教区ではそれぞれに叙階記念日と前後してお祝い会が開かれました。多くの人が集まった祝賀会は懐かしい人たちとの再会の場となり思いで話に花が咲くなど楽しい交わりのひとときとなりました。

金祝（叙階五十年）

J・シュマーヘル（ベトレヘム会）　4月6日
ベルナルド　深沢　守三　6月1日
マルチノ　児山六七男　6月1日

銀祝（叙階二十五年）

F・ザビエル横島　健二　7月10日
ヤコブ　安井　光雄　12月25日

記念式典

○社会福祉法人「カトリック児童福祉会」は創立二十五周年、特別養護老人ホーム「暁星園」は開設十五周年、軽費老人ホーム「あけの星荘」は開設十周年を迎えました。これを記念する式典、祝賀会が8月3日に仙台市内のホテルで行なわれ式典の中で佐藤理事長から、特別功労者永年勤続職員、土地寄贈者、各種奉仕団体に表彰状、感謝状が贈呈されました。

○養護施設「藤の園」（一関）は創立三十周年を迎えました。藤の園では9月8日に記念式典、祝賀会を施設内体育館で行ないます。

各種全国大会開催される

政令指定都市として発展し、全国からいろいろと期待されている仙台市と近郊で、カトリック関係の各種大会が今年度多数開催されています。すでに終わった集まりも含め紹介します。

○第30回朝祷会全国大会
5月24～26日
「御霊（みたま）によって祈りなさい」を主題に三百二十二人が仙台に集いました。元寺小路教会では一致を願って佐藤司教司式のミサが捧げられました。

○第21回日本カトリック保育施設研修会
7月24～26日
松島のホテルを会場に多数参加。
テーマ「子どもの育つ環境はこれでよいものか－人間関係とキリスト教的視点で考える」

○第33回日本カトリック看護協会全国大会
9月21～22日
テーマ「協力と奉仕の手をつなぐ看護」
仙台市内のホテル「メイフラワー」で

○第4回カトリック障害者連絡協議会総会
9月28～29日
「神の家族　今、愛と人権を問う」をテーマ。主会場、元寺小路教会。ボランティアの助けを受けて開催。

畳屋丁教会新築

本年2月23日に小さき花幼稚園（仙台）の新築落成式を終えた畳屋丁教会は、8月1日にいよいよ新聖堂の建築に着手しました。新聖堂は以前の聖堂に比べて小ぶりながら、集会室を持ちステンドグラスも取り入れた瓦葺きの建物。信徒たちは建設資金の準備に苦労しただけに、早期の完成を待ち望んでいる。11月中に完成する予定である。

一粒会の活性化を！

日本のカトリック教会は大体のところ、信徒は四十二万人、司祭は一千八百人、司祭一人あたりの信徒数は二百三十人となっています。しかし、別な見方をしますと、日本にはカトリック信徒以外のキリスト者を数えても約一億二千万人の福音を知らない人がいて、司祭一人あたり六万六千人に宣教をしなければならないという計算がなりたちます。

国外においても、各国ごとの違いがあるとはいえ司祭数が十分でないことは同様です。この関連で日本の信徒が忘れてはならないことがあります。

それは、88年に日本からブラジル宣教に赴いている仙台教区の首藤神父のように、海外からの司祭派遣の要請に応える時代が来ており、要請を無視することはできないということです。

しかし、司祭を養成することは人間の業だけではないものの、短期間ではできません。また、神学生養成は神学生と養成に関わるスタッフ、施設運営のため多額の費用も必要となります。

日本では教区司祭の養成機関として東京と福岡に神学校があり、仙台教区の司祭の多くは司教団によって運営されている東京カトリック神学院で、6年または7年にわたって養成をうけてきました。この神学校は各教区から拠出される分担金によって運営、維持されています。

90年度に仙台教区の司祭養成にかかった費用は約七百二十八万円でした。この金額は一粒会費として教区に納入された約四百九十三万円によって七〇％を賄うことが出来る金額です。

司祭養成は多くの人の物心両面の支えを必要とします。一粒会費は信徒の皆さんが日々積み重ねた尊い献金であり、司祭養成のために使われます。また、教会の将来に向けて司祭召命の芽を育てるためにも用いられるものです。

現在、仙台教区では教区神学生が3人とグアダルペ外国宣教会の神学生2人が神学校で学んでいます（教区ではグアダルペ外国宣教会の神学生に神学校での生活費を援助しています）。しかし、教区の司祭の高齢化、海外から新たに宣教師を迎えることが難しい状況を考えると、教区として司祭養成に今まで以上に力を注いで取り組まなければならないことは目にみえています。

昭和二十五年に発足した仙台教区の一粒会は現在まで活動を続けてきていますが、近年その活動が会員と献金の減少という状況をみせ停滞ぎみとなっています。

信徒は教会で司祭が果している役割の重要性を考え、信徒もこの国の福音化に責任を負うものであることを忘れてはなりません。

今こそ信徒が司祭召命のため一粒会員となり、祈りを込めた献金を捧げる時といえるのではないでしょうか。

信徒の皆さんに一粒会活動への理解と積極的参加を呼びかけます。

歓迎　8月にグアダルペ外国宣教会の神学生3名が来日しました。

教区より研修者派遣

司祭・信徒の信仰の生涯養成のため、司教団が91年2月に名古屋に開設した「日本カトリック研修センター」に、教区では司牧評議会の役員会での話し合いに基づいて代表者を派遣します。

研修センターでは各種の「研修会」「錬成会」「トレーニング」を企画していますが、今回教区から参加するのは①「福音宣教者となるために」②「開かれた小教区になるために」の2コースです。①には信徒が2名②には信徒と司祭が1名ずつ司牧評議会の委任を受けて参加します。

第二バチカン公会議と第一回福音推進全国会議の提案にもとづいて、信仰の生涯養成のために開かれた研修センターは全ての人に開かれています。日本の福音化を願って仙台教区からも参加者を派遣するこの企画が、全国に実りをもたらすものであることが期待されます。

教区センター建設計画の現状

仙台教区カテドラルの建て替えを伴う元寺小路教会敷地内の建物建設計画が、一九八九年四月十五日の「『カトリック仙台司教区センター』建設委員会の発足にあたって」と題する佐藤司教の書簡によって教区の信徒に示され、以後、建設に向けて具体的な動きが進められています。

建設委員会のメンバー任命から始まった建設に関する活動は、第一回建設委員会総会の開催と前後して、設計プラン、資金計画、業者の選定などと多岐にわたっています。計画発表から二年が経過するなかで建設委員会の会合はたびたび開かれ、建設についての検討が積み重ねられてきました。

また、委員会では教区民の理解を得るための活動として、教区センター建設の目的具体的な使用法、資金計画などについての説明会を各地で開き、その場で意見、要望等を聞くことを行なってきました。「教区センター建設ニュース」（現在13号まで）を発行して建設計画の進展状況を教区内に知らせ、建設についての啓蒙を計ることも委員会の大事な仕事となっています。

今のところ建設計画はプランをまとめることに時間がとられたり、社会状況の変化による資金計画の見直しの必要に迫られるなどの事情で、計画は当初見通しより遅れています。これからの予定は建設ニュースにもあるように

①基本設計図の提出－8月下旬
②概算見積書の提出－9月上旬
③建設委員会総会　－9月下旬

のスケジュールに沿って進められます。

教区センター建設は仙台教区の大事業です。このために各地では祈りと期待を込めた尊い献金が捧げられておりますが、今後も多くの人の力を集めて実りある働きを展開して行くことが大事になります。

聖書のことば

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

（フィリピ　4・13　新改約）

人間は弱いものです。それでいて神からも人からも助けてもらうことを喜ばないところがあります。でも、助けを受けることは恥ずかしいことではありません。救い主が差し出す救いの手を振り切ろうとすることこそ、本当は恥ずかしく、もったいないことです。神の力を受けられるとは、恵みに満たされるということです。

修道院移転

聖パウロ女子修道会（仙台）は建物が手狭なことと、教区センター建設に伴って元寺小路教会内から移転しなければならなくなっていました。そのための用地確保が難行していたが、仙台市内二の森に用地を得て移転することになりました。移転用地は篤志家によって寄贈されたもので、現在工事が行なわれています。建物の完成と修道院の移転は11月下旬に予定されている。

仙台白百合学園全面移転を決定

仙台白百合学園は8月16日に平成10年度に、現在地から三菱地所が仙台市北部に造成している泉パークタウンに全面的に移転することを発表しました。発表によると現在の敷地がグラウンドも設けられないほど狭いことと、学園の高校が平成5年に創立百周年を迎えるのに合わせて、移転計画を進めることにしたとのこと。時代の流れとはいえ、寂しさを感じる。

聖ウルスラ学院創立五十周年

学院創立五十年を迎える聖ウルスラ学院では「ひろげようウルスラ50年の輪」の標語を掲げて、年内に各種記念事業を行ないます。すでに終わった行事もありますが、教育振興基金（目標額一億円）の設立、記念誌の発行、学院賛歌の制定、写真展など多彩な事業を予定しています。

・創立記念式典・祝賀会
10月21日
聖ウルスラ学院高校（仙台）講堂。

・写真展「世界に広がるウルスラ展」
12月20日～25日
藤崎リビング館市民ホール

聖体奉仕者任命

会津若松教会で8月11日に聖体奉仕者の任命式がありました。教区内ではすでに数箇所の小教区で聖体奉仕者が活躍していますが、司教によって聖体奉仕者の任命を受けた5名は記念の聖書を手にしながら、その責務の重さと奉仕者としての喜びを実感したようです。

シューマヘル神父帰国

ベトレヘム会では5月に、長年岩手県で働かれ、「後藤寿庵祭」で有名なローネル神父（水沢）がスイスに帰国しています。

今回、在日40年、ベトレヘム会管区長を長年務め、岩手県内にたくさんの教会を作られた釜石教会のシューマヘル神父が急なことですが、9月4日に日本からスイスに帰国しました。シューマヘル神父は病気で何度か倒れリハビリを続けてきました。しかし、7月退院後の経過が思わしくなく帰国することになりました。

長年、日本の教会のために働かれた両神父に感謝し、今後も健康で活躍されることを祈ります。

講演と分かち合い

教区生涯養成委員会は次のようなプログラムを発表しました。

テーマ「教会の社会的責任を問う」
第一夜　救いの社会的次元
第二夜　カトリック教会の社会的使命
第三夜　いま呼びかける神（METANOIA）
場所　一本杉教会（仙台）
日程　9月19日～21日
講師　山田経三神父（イエズス会）

※講演テープ録音予定（3本・一千円）
希望者は一本杉教会ロワゼール神父へ

信徒大会開催

各地で信徒の集いが開かれています。今年の各地の集いのテーマは第二回福音推進全国会議の主題「家庭」に焦点を当てているのが大きな特徴です。これは全国会議に向けて教区民の意識を高め、会義の成功と福音宣教の実りを願う具体的な動きといえます。以下に終了分も含めて紹介します。

○カトリック宮城県大会
7月6日　白百合学園体育館
テーマ「家庭」
講演　安井光雄神父

○青森県カトリック信徒大会
9月8日　弘前文化センター
テーマ「家庭を通して　キリストの愛の実践を！」
講師　松本栄四郎、光代（太田教会信徒）

○福島県カトリックの集い
9月16日　小名浜教会・白百合幼稚園
テーマ「神の望まれる家庭をめざそう」
講演　永田リセ
（トンガ王国出身、いわき市在住）

○カトリック岩手県大会
10月20日　一関教会・愛心幼稚園
テーマ「家庭における信仰と家族」
講演　佐藤千敬司教

特集

講演・パネルディスカッション報告

カトリック宮城県大会に参加して

佐藤健治（塩釜教会）

宮城県内17教会信徒の年に一度の集い「第19回カトリック宮城県大会」は7月7日仙台白百合学園体育館で開催され、約五百人の信徒が出席した。今年の大会は佐藤司教様の年頭書簡に基づき、『福音宣教の土台・出発点である「家庭」を考える』をテーマにした。

午前は上智大学法学部教授で法学博士の安井光雄神父（仙台教区）の基調講演が行われ、爆笑の中、信徒の福音宣教に実際的な示唆を与えた。

午後は斎藤弘生（畳屋丁）さんの司会で「家庭」について、3人のパネリストから貴重な体験に裏付けられた発表があり、出席者に多大の感銘を与えた。

以下、安井神父の講演と各パネリストの発言の要旨を紹介し、この問題を仙台教区の信徒とともに考えてみたい。

●現代社会の指南車に！

安井光雄神父

どんな時代になろうとも、人間として歩む正しい道を示すことが出来るのはカトリック者だ。「家庭」という言葉は今日、精神的な共同体を指す言葉で、愛の絆で結ばれた共同体といえよう。

幸福な家庭には共通点があり、不幸な家庭には、非常に個別的なあらゆる問題がある。

大脳生理学によると、子どもは幼児期がとくに大切で、勉強するのは若いほど良いという仕組みになっている。伝道の書（コヘレトの言葉）に「すべてのわざには時がある」（3・1）と記されている。何をするにも時がある。学ぶにも学ぶ時がある。

両親は子供が小学校に入学する頃は、頭より心を育てる方向に向けなければならない。とくに、幼児の頃から、人を愛する、全人類のために働く心を。

福音宣教は立派なことを考えずに、身近な生活から始めるのがよい。「あの人は立派だなあ、カトリックだ」となれば、人は引かれていく。これが行ないによる証（あかし）である。

言葉による証はキリスト様を伝えることである。時折、カトリックアクションで熱心さの余り行動だけに走り、謙虚さを忘れることがある。しかし、謙虚さは人間として一番基礎にある徳である。成功は自分の手柄にしないで神様に捧げよう。

どんなに疲れていても、心だけは神様に向ける。それが祈りである。だから、すべてが神に向かっているような態度が見られたら、それが生活による証になる。

私たちはなにも特別なことをしなくとも立派な家庭を築いて行けば、それが生活による証になる。そこで、一番大事で根底にあるのは「愛」である。

昔は愛を「ご大切」といった。あなたの主なる神様を大切に、隣人を大切にしなさい。家庭では夫婦、親子で互いに大切にし合う関係にしなさい。

夫婦の問題について悩みのある人には、教会の中で救済の道がたくさんある。司祭に相談することが肝要。

外国に比べ、日本の信徒の家庭生活は立派である。辛さはあろうが、社会の中で困難はこの様に解決し、このような幸せな家庭を築けると人々に示すのが、家庭からの宣教ではなかろうか。「人間として、現代の社会の指南車になろう」というのが私の結論である。

注・指南車（しなんしゃ）
（中国古代の方向指示装置のある車。歯車仕掛けで、初めに南に向けておくと車上の人形の手が常に南を指すというもの。）

（次ページへ）

●夫婦、子ども、仕事が一体

水上徹彦（父親代表・大河原）

自分の家庭の恥をさらけだすことに抵抗を感じたが分かち合いのため、勇気を持って話す。

夫婦は互いに仲がよくなるように努力することが大切。私は家庭をとるか、仕事をとるか悩み、家庭をとった。互いに信仰を持っていれば、考え方が一致する。

一般的に、親が忙しくなると、子供は放任しがちになる。私は出来るだけ子供と遊ぶようにした。子供は親の姿勢を見ながら学んでいく。

仕事は神から与えられたものと、誇りを持ってやった。仕事は自分の気持ち次第。

この、夫婦・子供・仕事の三つが一体となって、一つが欠けてもなかなか家庭はうまく行かない。

●信仰の光で家庭を照らす

牛坂朋美（青年代表・元寺小路）

私は家庭でも職場でも一人信者。病院で死に行く人々に接し、ホスピスが人生の目標になった。私の場合、看護婦という自分の職業自体が信仰の基盤になっている。

何気なく始めた「いのちの電話」の奉仕で、悩める人、孤独な人に愛を与え続けるボランティア達が本当に力強いキリスト教精神に支えられていることを見ました。

苦しんでいる人々とともに歩んだイエス様と私も一緒に歩んで、そこから人々が神様の光を見つけるような生き方ができたらそれこそ大きな福音宣教になると思う。

私も結婚して家庭をつくり、また一人信者になるかも知れない。たとえ家族が教会へ行くことを認めてくれなくとも信仰の灯は消してはいけないし、その光で家族を照らし、導いていくのがキリスト者としての使命ではないかと考えている。

●キリストの暖かさ

小田島佳子（母親代表・北仙台）

8人家族の主婦、「いのちの電話」での奉仕やガンで闘った隣家の主婦を家族ぐるみで援助した体験を通じて……私が誰かの消えかかったロウソクに生きる勇気を灯してあげることができたとすれば、それは私の家族を通じて与えられる暖かさ、家族の中に生きているキリストの暖かさによると思う。

それは気付きさえすれば、全ての家族の中に明るく燃えている炎であり、キリストの祝福の光であるとわかる。

クリスチャンであれ、ノンクリスチャンであれ、人という生き物の中に、神が灯された明かりがある。それに気付きさえすれば人は人らしく生きていけると私は思う。

だから、それを伝えるのがキリスト者に与えられた一人の人間としての行き方ではないかと思っている。

編集後記

一年ぶりに帰ってきた教区報。昔の名前で出てきました▼発行にこぎつけるまでは、世の中の動きを無視したくなるような気がしたこともありました▼でも、知らないで済むことと、知らずにいてほしくないことが世の中にはあります▼何が本当に大事かの見分けもつけがたいのに、船のオールを動かしてしまいました。沖にこぎ出せとイエスはあるとき弟子達に話しました。同じ言葉が今私たちの周りにこだましています▼主の言葉を喜んで聞く人がいることを思い浮かべてオールを漕ぐ手に力を入れようかと思います。

原稿募集

小教区、修道院の話題など、教区報の編集に使えそうな情報の提供を広く呼びかけます。教会だより、パンフレット、写真、イラスト、アイデアなど、係までお寄せください。年代等は問いません。

今後、係からもお手伝いをお願いしたいと考えています。その際にはご協力を